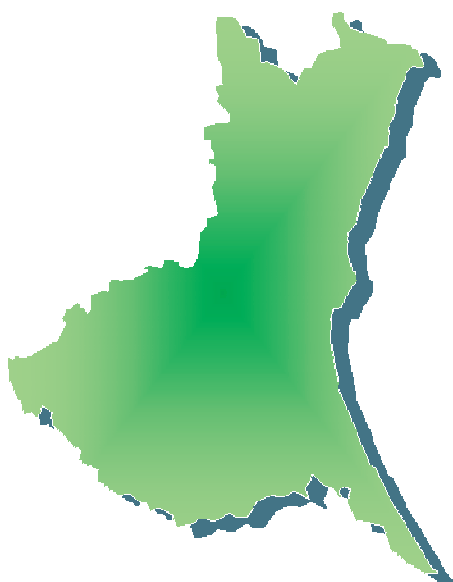


茨城県農林水産業の概況



令和8年6月

茨城県農林水産部

目次

1	茨城県の概況	1
2	農業の概況～本県農業の地位～	3
	(1) 農業経営体数及び農業産出額	
	(2) 青果物の取扱金額とシェア	
	参考資料：本県農業の地位、農地、農業経営体	
3	農業産出額	10
	(1) 農業産出額	
	(2) 生産農業所得	
	(3) 本県の主な農産物の生産動向	
	(4) いばらきの野菜・果物・肉の買える店、食べられる店	
	参考資料：本県オリジナル品種や、ブランド化を目指す品種等	
	参考資料：本県のブランド畜産物	
	参考資料：6次産業化、直売所	
	参考資料：農林水産物の輸出	
4	森林・林業の概況	23
	(1) 本県森林の特徴と地位	
	(2) 本県の林産物の生産動向	
	参考資料：森林湖沼環境税を活用した主な取組事例	
5	水産業の概況	27
	(1) 本県水産業の特徴と地位	
	(2) 本県水産業の生産動向	
	(3) 経営体及び漁業就業者の動き	
	(4) 栽培漁業	
	(5) 漁港等の漁業生産基地	
	参考資料：本県の代表的な魚介類	
	参考資料：いばらきの地魚取扱店	
	参考資料：茨城県の漁港及び港湾	

1 茨城県の概況

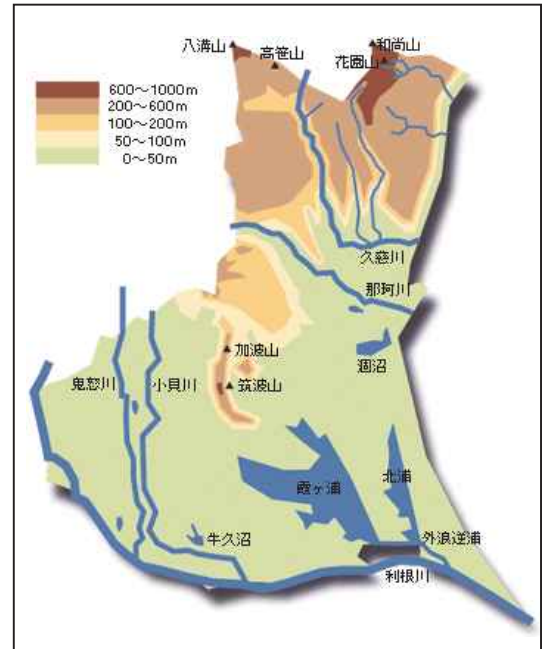
(1) 位置・面積

本県は東京の中心から北東に40km～160kmに位置し、総面積は約61万haで全国第24位です。このうち、耕地面積は約16万haで全国第3位、森林面積は約19万haで全国第39位です。

(2) 地形

本県の北部は、阿武隈山地の南端部にあたる八溝・久慈・多賀の諸山地が連なっており、その間に久慈川・那珂川流域の平坦地が広がります。また、県南部は関東平野の東部をなす平坦な地形となっており、広大な可住地を有しています。

本県の農地は、利根川、那珂川、霞ヶ浦流域の水田地帯と、那珂、行方、稲敷、石岡といった台地の畑作地帯、さらに県北の中山間地帯とに大別されます。



(3) 海岸線・湖

琵琶湖に次いで全国で2番目に大きな湖である霞ヶ浦(北浦を含む)と、鹿島灘に面する約195kmの長い海岸線を有しています。

(4) 平均気温・特産品

茨城県の年平均気温は、13～14.5℃の範囲で温暖であり、様々な動植物の南限北限の境となっています。このような気象条件等を生かし、数多くの農林水産物が生産されています。

◇ 地域の気象条件等を活かした特産品

りんご(大子町)、お茶(大子町・坂東市等)、みかん(石岡市、桜川市、つくば市)、干しいも(ひたちなか市等)、千両・若松(神栖市波崎地区等)

◇ 地理的表示(GI)の登録をした産品

江戸崎かぼちゃ(稲敷市、牛久市桂町)、飯沼栗(茨城町)

水戸の柔甘ねぎ(水戸市、城里町、茨城町)

奥久慈しゃも(大子町、常陸大宮市、常陸太田市、高萩市)

行方かんしょ(行方市、潮来市、鹿嶋市、銚田市、小美玉市、かすみがうら市)

◇ 茨城県の面積と人口

	茨城県	全 国	本県の 順位
総面積 (ha) *1	609,754	37,797,326	24
可住地面積 (ha) *1	388,890	12,295,418	4
耕地面積 (ha) *2	156,400	4,239,000	3
森林面積 (ha)	*4 187,014	*3 25,024,810	*3 39
総人口 (千人) *1 男女計	2,840	124,947	11

*1 社会生活統計指標－都道府県の指標－2024 基礎データ－B 自然環境 公表データは 2022 年時点
(総務省令和 6 年 2 月 20 日公表)

*2 令和 8 年 3 月末現在 (農林水産省令和 8 年 6 月 16 日公表)

*3 森林資源の現況 (林野庁令和 4 年 3 月 31 日現在)

*4 林政課資料 (令和 7 年 4 月 1 日現在)

2 農業の概況 ～本県農業の地位～

(1) 農業経営体数及び農業産出額

本県の農業は、我が国の農業の中でも重要な地位を占め、農業経営体数は全国第2位となっています。

また、本県の令和6年の農業産出額は5,494億円で、北海道、鹿児島県に次いで全国第3位です。

◇ 本県の農業を表す主要な指標（※詳細は別添参考資料参照）

区 分		茨城県	全 国	本県の 順位
農 業 構 造	農業経営体数（千経営体） *1	34	836	2
	うち主業経営体数（千経営体） *1	8	190	4
	基幹的農業従事者数（千人） *1	43	1,036	3
	販売農家数（千経営体） *1	33	793	2
農業産出額（億円） *2		5,494	107,801	3
生産農業所得（億円） *2		2,002	39,649	2

*1 2025年農林業センサス

農業経営体 : 農産物の生産を行うか又は委託を受けて農作業を行い、(1)経営耕地面積が30a以上、(2)農作物の作付面積等が一定の基準以上、(3)農作業の受託を実施、のいずれかに該当する者

主業経営体 : 農業所得が主（世帯所得の50%以上が農業所得）で、1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる個人経営体

基幹的農業従事者 : 自営農業を主な仕事としている世帯員

販売農家 : 経営耕地面積30a以上又は農産物販売金額50万円以上の農家

*2 生産農業所得統計（令和6年農業産出額及び生産農業所得全国及び都道府県別）

(2) 青果物の取扱金額とシェア

本県は、首都圏への重要な食料供給基地となっており、東京都中央卸売市場における本県産青果物の取扱金額のシェアは22年連続で日本一となっています。

◇ 東京都中央卸売市場における本県産青果物の取扱金額とシェア

(単位：億円)

年	取扱金額		順位
	市場全体	茨城県 (シェア)	
H28	5,865	617 (10.5%)	1位
H29	5,701	602 (10.6%)	1位
H30	5,688	567 (10.0%)	1位
R 1	5,346	522 (9.8%)	1位
R 2	5,506	562 (10.2%)	1位
R 3	5,356	527 (9.8%)	1位
R 4	5,502	562 (10.2%)	1位
R 5	5,663	593 (10.5%)	1位
R 6	5,952	659 (11.1%)	1位
R 7	5,884	628 (10.7%)	1位

参考資料：本県農業の地位

1 本県農業の地位

区分	年次	茨城県			全国		全国の順位					
		実数	単位	順位	実数	単位	1	2	3	4	5	
農業構造	総農家数	R7年	56,248	戸	2	1,394,135	戸	長野	茨城	兵庫	愛知	福島
	販売農家数	"	32,863	戸	2	792,808	戸	長野	茨城	福島	新潟	兵庫
	自給的農家数	"	23,385	戸	5	601,327	戸	長野	愛知	岐阜	兵庫	茨城
	農業経営体数	"	33,809	経営体	2	836,054	経営体	長野	茨城	新潟	福島	兵庫
	個人経営体	"	32,777	経営体	2	795,828	経営体	長野	茨城	福島	新潟	兵庫
	主業経営体数	"	8,047	経営体	4	190,054	経営体	北海道	青森	熊本	茨城	長野
	準主業経営体数	"	2,810	経営体	9	87,142	経営体	新潟	福島	兵庫	長野	岩手
	副業的経営体数	"	21,920	経営体	2	518,632	経営体	長野	茨城	福島	兵庫	新潟
	団体経営体	"	1,032	経営体	15	40,226	経営体	北海道	新潟	鹿児島	熊本	長野
	法人経営体	"	930	経営体	7	33,819	経営体	北海道	鹿児島	新潟	熊本	長野
	基幹的農業従事者数	"	43,102	人	3	1,036,228	人	北海道	長野	茨城	熊本	福島
	耕地面積	R7年	156,400	ha	3	4,239,000	ha	北海道	新潟	茨城	青森	秋田
	田	"	92,800	ha	5	2,300,000	ha	北海道	新潟	秋田	宮城	茨城
	普通畑(樹園地等含む)	"	63,600	ha	4	1,939,000	ha	北海道	鹿児島	青森	茨城	岩手
1戸当たりの耕地面積	(注2)	2.78	ha	17	3.04	ha	北海道	青森	秋田	富山	宮城	
農業生産 (注3)	農業産出額	R6年	5,494	億円	3	107,801	億円	北海道	鹿児島	茨城	千葉	青森
	米	"	1,399	億円	4	25,524	億円	新潟	北海道	秋田	茨城	福島
	園芸	"	2,629	億円	2	41,610	億円	北海道	茨城	長野	熊本	愛知
	いも類	"	386	億円	2	2,565	億円	北海道	茨城	鹿児島	千葉	長崎
	野菜	"	1,958	億円	2	25,510	億円	北海道	茨城	熊本	千葉	愛知
	果実	"	129	億円	19	10,112	億円	青森	長野	山梨	和歌山	山形
	花き	"	156	億円	6	3,423	億円	愛知	千葉	福岡	静岡	長野
	畜産	"	1,286	億円	9	36,654	億円	北海道	鹿児島	宮崎	岩手	千葉
生産農業所得	"	2,002	億円	2	39,649	億円	北海道	茨城	熊本	鹿児島	千葉	

(出典)農家数、販売農家数等：農林水産省「2025年農林業センサス」 耕地面積：農林水産省「面積調査」(概数値)

農業生産：農林水産省「生産農業所得統計」

注1) 2025年農林業センサスによる。耕地面積は令和7年耕地面積(令和8年3月末現在)(農林水産統計)による。

注2) 1戸当たりの耕地面積は、令和7年耕地面積を2025年農林業センサス総農家で割り返した数値。

注3) 本県の実数は令和6年都道府県別生産農業所得統計による。全国の実数は令和6年全国生産農業所得統計による。

参考資料：農地

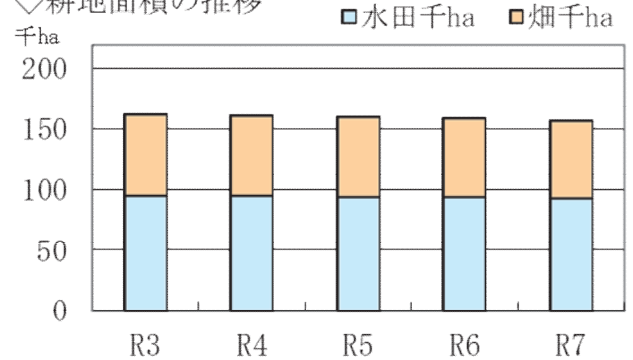
(1) 耕地面積

耕地面積は県土（61万ha）の約3割（16万ha）を占め、全国第3位ですが、年々減少しており、耕地利用率も全国平均をやや下回っている状況です。

◇ 本県の耕地面積（資料：耕地及び作付面積統計）

年	耕地面積 ha	水田 ha	畑 ha
R3	162,300	95,300	67,000
R4	160,700	94,700	65,900
R5	159,400	94,300	65,200
R6	158,300	93,900	64,500
R7	156,400	92,800	63,600

◇ 耕地面積の推移

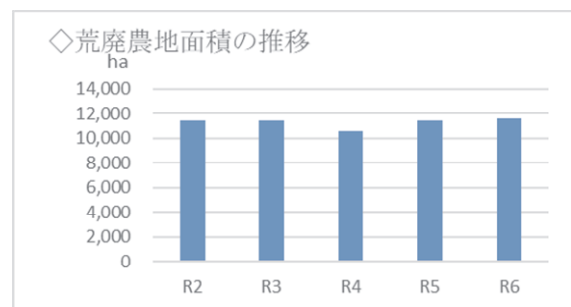


(2) 荒廃農地

令和7年3月31日現在の荒廃農地の面積は11,634haで、農地の有効活用が課題となっています。

◇ 荒廃農地面積の推移（資料：農林水産省 HP「荒廃農地の発生・解消状況に関する調査結果等」）

年	茨城県 ha	全国 ha
R2	11,393	281,831
R3	11,429	259,502
R4	10,600	253,217
R5	11,392	256,676
R6	11,634	256,667



※荒廃農地：現に耕作に供されておらず、耕作の放棄により荒廃し、通常の農作業では作物の栽培が客観的に不可能となっている農地。

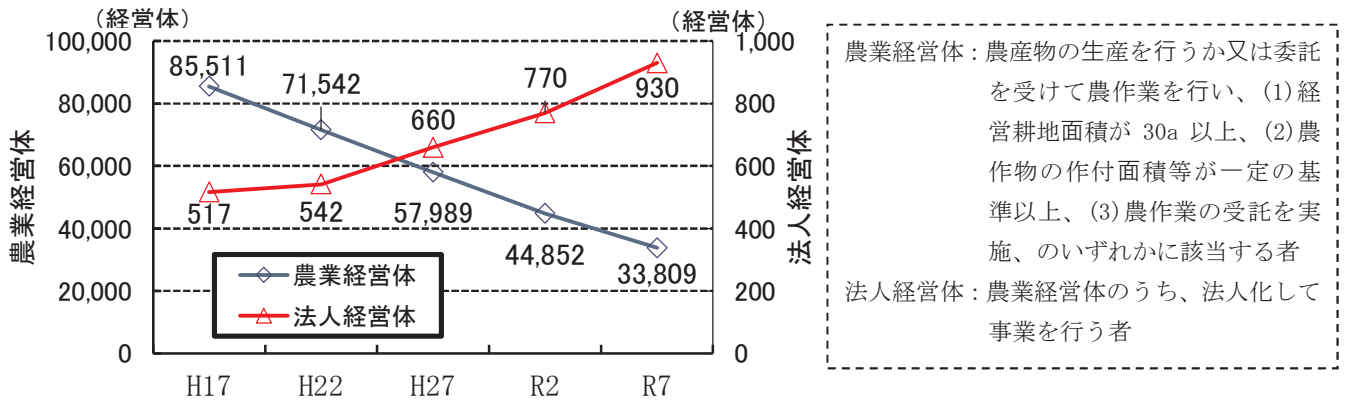
※R2年度まで：非農地判断済農地を含む R3年度以降：非農地判断済農地を除く

参考資料：農業経営体

(1) 農業経営体数

令和7年2月1日現在の農業経営体数は3万3,809経営体で、令和2年に比べ1万1,043戸(▲24.6%)減少しました。このうち、法人経営体数は930経営体で、令和2年に比べ160経営体(20.8%)増加しました。

◇ 本県農業経営体数の推移 (資料：2025年農林業センサス)



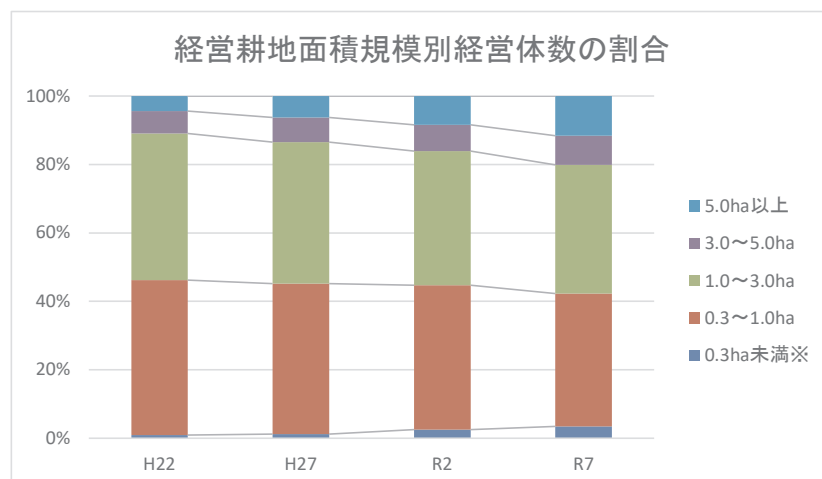
(2) 規模別経営体数

総農家数が減少する中で、5.0ha以上の大規模農家は増加しています。一方、経営規模0.3~5.0ha未満の農家は減少しており、大規模な専業経営と中小規模な農家に分化しています。

◇ 経営耕地面積規模別経営体数 (単位：経営体)

規模	年		年		年		年	
	H22	(構成比)	H27	(構成比)	R2	(構成比)	R7	(構成比)
0.3ha未満※	657	(0.9%)	679	(1.2%)	1,125	(2.5%)	1,135	(3.4%)
0.3~1.0ha	32,395	(45.3%)	25,506	(44.0%)	18,922	(42.2%)	13,156	(38.9%)
1.0~3.0ha	30,705	(42.9%)	23,988	(41.4%)	17,596	(39.2%)	12,722	(37.6%)
3.0~5.0ha	4,655	(6.5%)	4,195	(7.2%)	3,414	(7.6%)	2,863	(8.5%)
5.0ha以上	3,130	(4.4%)	3,621	(6.2%)	3,795	(8.5%)	3,933	(11.6%)
計	71,542		57,989		44,852		33,809	

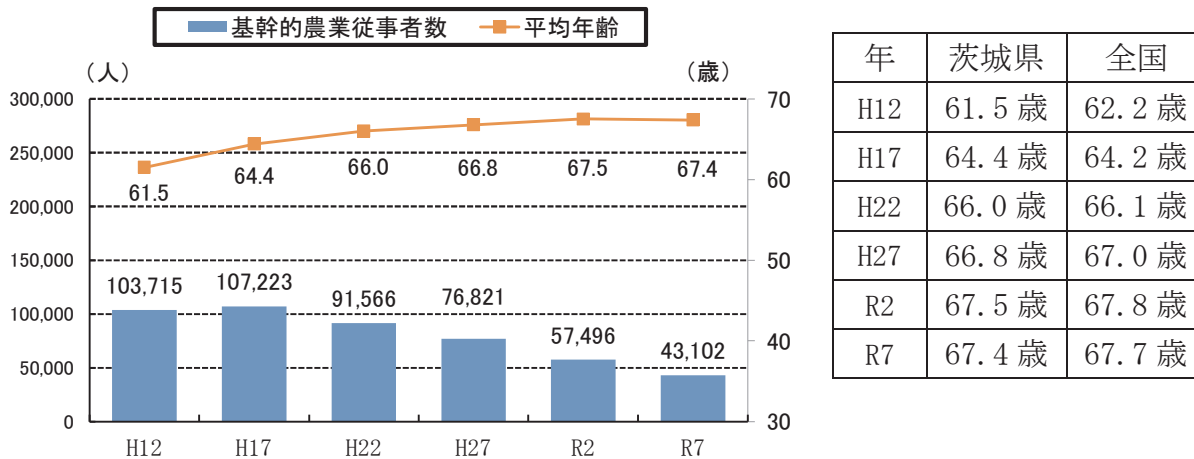
※0.3ha未満には経営耕地なしの経営体を含む。



(3) 基幹的農業従事者数

基幹的農業従事者数は年々減少している一方、令和7年の平均年齢は令和2年に比べ0.1歳下がり、今後の動向を注視していく必要があります。

◇ 本県の基幹的農業従事者数と平均年齢（資料：農林業センサス）



(4) 認定農業者数

本県では認定農業者数が減少傾向にある一方で、法人数及び法人の占める割合は年々高くなっています。

◇ 本県の認定農業者数等の推移（資料：農林水産省経営局経営政策課調べ）

年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
認定農業者数(a)	8,481	8,450	8,588	8,603	8,478	8,231	8,102	8,108	8,167	7,992
(a)のうち法人数(b)	530	588	632	658	696	731	757	803	836	854
法人化率 (b/a) (%)	6.3	7.0	7.4	7.6	8.2	8.9	9.3	9.9	10.2	10.7

(5) 新規就農者数

近年は平成30年度をピークに減少傾向ですが、雇用就農は概ね横ばいで推移しており、全体に占める割合が増加しています。

◇ 本県の新規就農者数の推移 (資料：県調べ)

(単位：人)

区分(年齢)		年度	H22	H27	H30	R2	R3	R4	R5	R6
青年 (16～44歳)	新規学卒		42	32	22	21	21	30	8	9
	Uターン		114	106	116	96	66	63	47	28
	新規参入		44	27	67	54	67	64	63	41
	雇用就農		—	135	173	133	155	158	148	107
計			200	300	378	304	309	315	266	185
中高年齢者 (45～65歳)	Uターン		43	15	29	21	24	31	18	1
	新規参入		19	4	15	11	22	25	19	7
	雇用就農		—	27	13	21	13	34	30	22
計			62	46	57	53	59	90	67	30
合計			262	346	435	357	368	405	333	215

※H22までの年齢区分は、青年(16～39歳)、中高年齢者(40～65歳)。雇用就農者数は含まない。

※H27以降は国の年齢区分変更に伴い、青年(16～44歳)、中高年齢者(45～65歳)で、雇用就農者数を含む。

3 農業産出額

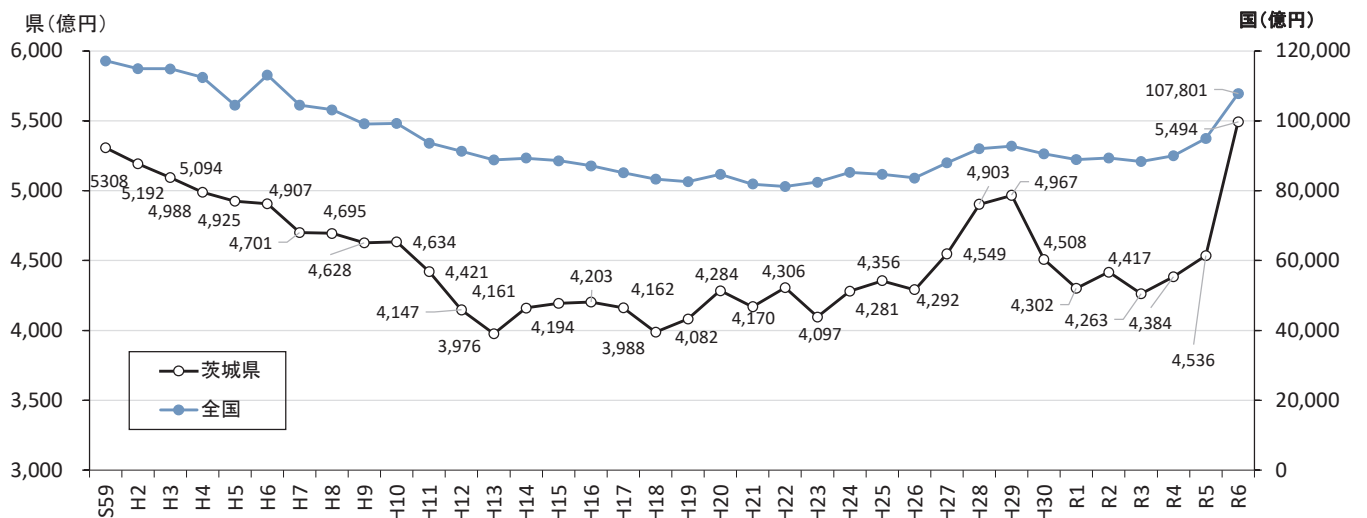
(1) 農業産出額

本県の農業産出額は、平成13年の3,976億円を底として以降、増加傾向で推移しており、令和6年は前年比958億円増の5,494億円で、全国順位は前年に引き続き全国第3位となりました。

内訳は園芸（いも類、野菜、果実、花き）が47.9%（2,629億円）、畜産が23.4%、米が25.5%であり、園芸部門の割合が高く、かんしょやメロン等産出額上位の品目が多いことも特徴です。

◇ 農業産出額推移

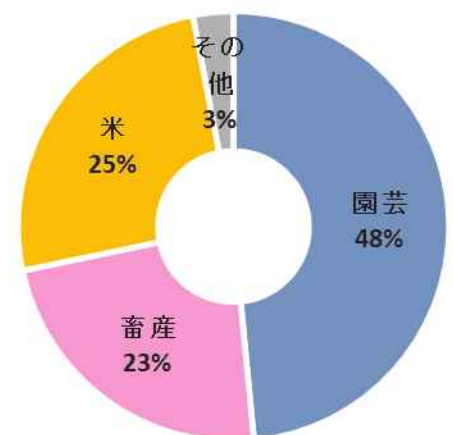
（資料：生産農業所得統計）



◇ 農業産出額と構成比

（単位：億円、%）（資料：生産農業所得統計）

区分	年度	R6		R5	
		産出額	構成比	産出額	構成比
合計 (①+②+③)		5,494	100.0	4,536	100.0
耕種	耕種計 ①	4,075	74.2	3,082	67.9
	米	1,399	25.5	703	15.5
	麦類	7	0.1	9	0.2
	雑穀・豆類	18	0.3	20	0.4
	園芸(いも類+野菜+果実+花き)	2,629	47.9	2,328	51.3
	いも類	386	7.0	375	8.3
	野菜	1,958	35.6	1,664	36.7
	果実	129	2.3	124	2.7
	花き	156	2.8	165	3.6
	工芸農作物	3	0.1	4	0.1
	種苗・苗木類・その他	18	0.3	18	0.4
	畜産	畜産計 ②	1,286	23.4	1,353
肉用牛		206	3.7	196	4.3
乳用牛		250	4.6	236	5.2
豚		415	7.6	405	8.9
鶏		413	7.5	514	11.3
その他畜産物		1	0.0	2	0.0
加工農産物	③	133	2.4	100	2.2



令和6年 農業産出額内訳

※合計が総数と一致しないのは、四捨五入による。

◇ 品目別産出額順位（令和6年）

（資料：生産農業所得統計）

全国第1位	12品目	かんしょ、はくさい、ピーマン、メロン、かんしょ切干、れんこん、こまつな、みずな、切り枝、芝、チンゲンサイ、くり
全国第2位	6品目	鶏卵、レタス、日本なし、もやし、らっかせい、みつば
全国第3位	7品目	ねぎ、ほうれんそう、にら、スイートコーン、マッシュルーム、そば、そらまめ

◇ 品目別農産物産出額の順位と構成比（令和6年）

（単位：億円、%）

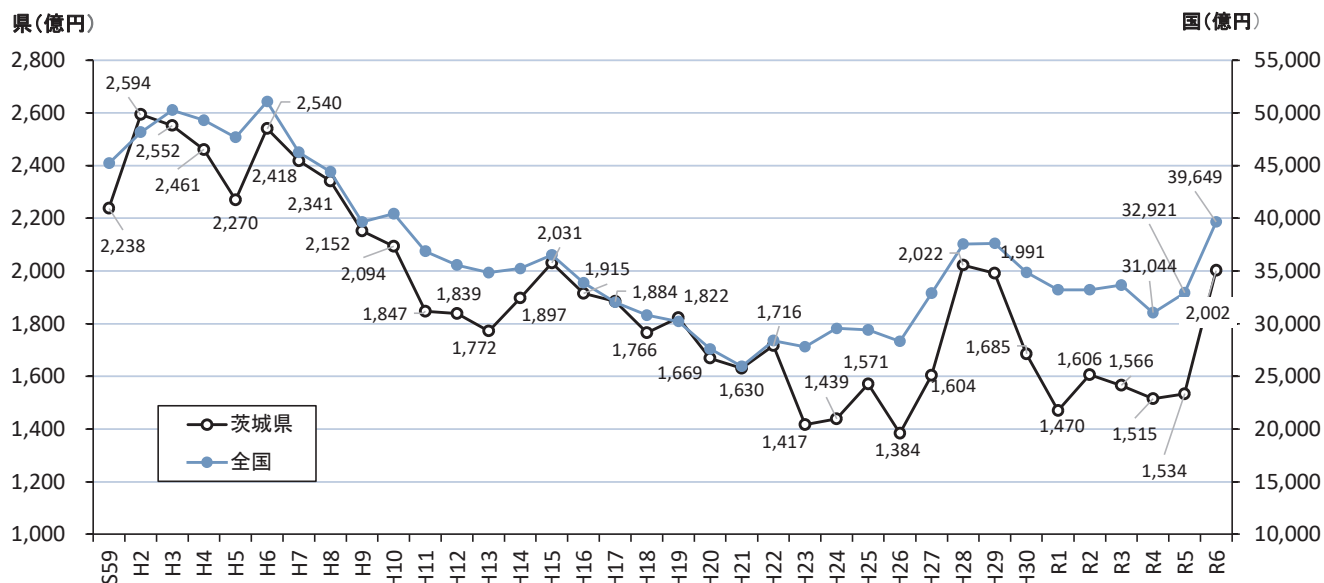
	農産物名	産出額	構成比	全国順位
順位	県 計	5,494	100.0	3
1	米	1,399	25.5	4
2	豚	415	7.6	7
3	鶏卵	366	6.7	2
4	かんしょ	337	6.1	1
5	生乳	240	4.4	7
6	肉用牛	206	3.7	9
7	はくさい	204	3.7	1
8	レタス	159	2.9	2
9	ピーマン	159	2.9	1
10	メロン	152	2.8	1
11	ねぎ	138	2.5	3
12	かんしょ切干	132	2.4	1
13	いちご	116	2.1	7
14	トマト	114	2.1	4
15	キャベツ	108	2.0	4
16	れんこん	95	1.7	1
17	こまつな	75	1.4	1
18	日本なし	73	1.3	2
19	ほうれんそう	72	1.3	3
20	きゅうり	63	1.1	7
21	きょうな（みずな）	51	0.9	1
22	切り枝	49	0.9	1
23	ばれいしょ	49	0.9	4
24	だいこん	40	0.7	7
25	にら	39	0.7	3
26	なす	38	0.7	6
27	芝	37	0.7	1
28	にんじん	35	0.6	7
29	すいか	34	0.6	6
30	ブロイラー	34	0.6	20

(2) 生産農業所得

本県の生産農業所得は、平成 26 年の 1,384 億円を底とし、令和 6 年は前年よりも 468 億円上げ、2,002 億円となり、全国順位は 1 つ上げ、第 2 位となりました。

◇ 生産農業所得推移

(資料：生産農業所得統計)



(3) 本県の主な農産物の生産動向

(a) 米

本県の米の作付面積は 68,800ha (令和 7 年) で全国第 4 位、生産量は約 36.4 万 t で全国第 7 位となっています。全国有数の生産量を誇る主力品種の「コシヒカリ」をはじめ、県南地域等の早場米地帯を中心に関東でも早期に収穫・出荷されている「あきたこまち」や高温に強い「にじのきらめき」、本県育成のオリジナル品種の「ゆめひたち」「ふくまる SL」「一番星」など、様々な特徴を持つ品種が各地域で作付けされています。

◇ 米の産出額等

(資料：農林水産統計)

	年度	本県	全国
産出額	R6 (R5)	1,399 億円 (703 億円)	25,640 億円 (15,279 億円)
作付面積	R7 (R6)	68,800ha (62,500ha)	1,425,000ha (1,359,000ha)
10a 当り収量	R7 (R6)	529 kg (542 kg)	547 kg (540 kg)
作況指数	R7 (R6)	98 (※) (103)	102 (※) (101)



※過去 30 年平均値を元にした作況指数は R6 年度で廃止され、R7 年度より直近 5 年中 3 年平均値を元にした作況単修指数に変更された。

◇ 水稻収穫量の推移

(資料：農林水産統計)

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
全国(千t)	8,042	7,822	7,780	7,762	7,763	7,563	7,269	7,165	7,345	7,790
茨城県(千t)	361	358	358	344	360	345	319	316	339	364
全国順位	7	6	7	7	7	6	6	7	7	7

また、本県では、各地域で「おいしさ」や「安全・安心」等にこだわった「地域オリジナル米」が栽培されています。

主な産地	・奥久慈の恵うまかっぺ	・潮来あやめちゃん
	・筑波北条米	・めぐみちゃん
	・うまさ駆け抜ける美浦そだち	・ななかいの里コシヒカリ
	・みずほちゃん	・笠間の粋 かさまのう米

(b) そば

本県で品種育成し、栽培されている「常陸秋そば」は、全国の有名そば職人から高い評価を得ています。

◇ そば収穫量

(資料：農林水産統計)

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
茨城(t)	2,090	1,770	2,020	2,010	2,770	2,060	3,000	3,050	2,670	2,660
全国順位	2	4	3	6	4	7	3	2	3	3

(c) いも類

かんしょの作付面積は7,810ha(令和6年)で全国第2位、産出額は337億円(令和6年)で全国第1位となっています。

また、ほしいもの産出額は132億円(令和6年)で全国第1位となっており、シェアは9割以上を占めています。

品種については、以前の「ベニアズマ」、「タマユタカ(ほしいも用)」に代わり、近年は、生食、ほしいも用ともに「べにはるか」(甘みが強く、肉質が粘質)が主流となっています。



◇ かんしょの産出額等

(資料：農林水産統計 生産農業所得統計 R6データ、作物統計調査 R6データ)

順位	県名	産出額(億円)	作付面積(ha)	収穫量(t)
1	茨城県	337(30%)	7,810(25%)	199,200(28%)
2	鹿児島県	223(20%)	9,490(30%)	218,300(30%)
3	千葉県	167(15%)	3,400(11%)	83,300(12%)
	全国	1,107	31,800	717,000

※順位は産出額順

ばれいしょの作付面積は1,630ha(令和6年)で、ポテトチップスなどの加工用品種では「トヨシロ」、「ワセシロ」、青果用では「とうや」、「メイクイン」、「男爵薯」、「キタアカリ」などの品種が栽培されています。

(d) 野菜

◇ 指定野菜 14 品目 (ばれいしょ除く) の作付面積等

(資料：農林水産省野菜生産出荷統計 R6 年データ)

区分	キャベツ	きゅうり	さといも	だいこん	トマト	なす	にんじん
面積(ha)	2,380	447	247	1,100	894	429	786
全国順位	4	5	13	7	2	3	5
傾向	→	↘	↘	↘	↘	↘	↘

区分	ねぎ	はくさい	ピーマン	レタス	たまねぎ	ほうれんそう	ブロッコリー
面積(ha)	2,030	3,300	539	3,260	171	1,310	198
全国順位	1	1	1	2	14	4	18
傾向	↗	↘	→	↘	→	↗	↘

※傾向は、直近の3ヶ年と5年前の3ヶ年の平均面積を比較。

◇ 茨城県の作付面積が全国上位の品目(14品目外)

(資料：農林水産省 野菜生産出荷統計 R6 年データ)

区分	れんこん	メロン	みずな	ちんげんさい	みつば	カブラワー	ごぼう
面積(ha)	1,770	1,170	922	502	157	108	739
全国順位	1	1	1	1	1	3	2
傾向	↗	↘	→	→	↘	→	↘

※傾向は、直近の3ヶ年と5年前の3ヶ年の平均面積を比較。

◇ メロン (資料：農林水産省 生産農業所得統計 R6 年データ、野菜生産出荷統計 R6 年データ)

- ・本県のメロンは産出額、作付面積、収穫量とも全国第1位です。

県内の主な産地は銚田市、八千代町、茨城町です。

順位	県名	産出額(億円)	作付面積(ha)	収穫量(t)
1	茨城県	152(21%)	1,170(21%)	36,900(27%)
2	熊本県	126(18%)	793(14%)	20,900(15%)
3	北海道	118(17%)	766(14%)	19,100(14%)
	全 国	707	5,520	137,500



◇ ピーマン (資料：農林水産省 生産農業所得統計 R6 年データ、野菜生産出荷統計 R6 年データ)

- ・本県のピーマンは産出額、作付面積、収穫量とも全国第1位です。

県内では鹿行地域を中心に栽培されています。

順位	県名	産出額(億円)	作付面積(ha)	収穫量(t)
1	茨城県	159(24%)	539(18%)	33,500(23%)
2	宮崎県	119(18%)	271(9%)	24,300(17%)
3	鹿児島県	61(9%)	134(4%)	13,000(9%)
	全 国	668	3,050	143,000



※順位は産出額順

(e) 果実

令和6年の本県樹園地面積は5,570ha(前年比98.9%)、果樹産出額は129億円(同104%)で、本県農業産出額全体の約2.3%を占めています。

主な品目には、収穫量が全国第2位のなし、全国第1位のくり(令和6年:3,780t)があり、その他に、りんご、ぶどう、かき、ブルーベリー等が栽培されています。

◇ なし (資料：農林水産省 生産農業所得統計 R6年データ、果樹生産出荷統計 R6年データ)

・本県のなしは、産出額全国第2位、結果樹面積第2位、収穫量第2位です。

主要な品種として、幸水(5割)、豊水(3割)、新高(1割)等が栽培されています。

順位	県名	産出額(億円)	結果樹面積(ha)	収穫量(t)
1	千葉県	85(11%)	1,250(13%)	21,400(12%)
2	茨城県	73(10%)	815(9%)	17,100(10%)
3	鳥取県	55(7%)	538(6%)	10,300(6%)
—	全 国	754	9,570	172,700



※順位は産出額順

(f) 花き

本県の花き生産は、小菊、グラジオラス等の切り花の他、若松、千両、柳などの切り枝類など露地栽培が大半を占めています。

本県花きの令和6年の栽培面積は3,641ha(前年比98.1%)、令和6年の産出額は156億円(同94.5%)で、本県農業産出額全体の約2.8%を占めています。

◇ 花きの種類別作付面積

(資料：農林水産省 花き生産出荷統計 R6年データ、花木等生産状況調査 R6年データ、芝は茨城県調べ R6年データ)

種 類	作付面積(ha)	主要品目等
切花類(切枝類含む)	539	切枝、小菊、ばら、グラジオラス等
鉢物類	70	シクラメン、洋ラン等
花壇用苗物類	62	パンジー等
芝	2,970	
計	3,641	



(g) 畜産

近年、生産者の高齢化や飼料価格の高騰などから家畜飼養戸数は減少傾向にあります。

令和6年畜産産出額は1,286億円であり、本県の農業産出額の約23.4%を占めており、全国順位では第9位となっています。畜種別では、鶏は413億円で第7位（うち鶏卵は366億円で第2位）、豚は415億円で第7位、生乳は250億円で第7位、肉用牛は206億円で9位であり、全国の中で上位に位置しています

また、本県を代表する畜産物として、銘柄畜産物の「常陸牛」、「常陸の輝き」、「ローズポーク」、「奥久慈しゃも」が育てられています。

◇ 本県の家畜飼養頭羽数の推移

(資料：畜産統計)

	乳用牛 飼養頭数(頭)	全国 順位	肉用牛 飼養頭数(頭)	全国 順位	肉豚 飼養頭数(頭)	全国 順位	採卵鶏 飼養羽数(千羽)	全国 順位	ブロイラー 飼養羽数(千羽)	全国 順位
H26	26,700	8	52,800	14	559,500	6	12,648	1	1,487	18
H27	25,500	8	51,000	14	(540,600)	-	(13,295)	-	(1,660)	-
H28	24,200	8	50,200	15	557,700	6	12,840	1	1,613	17
H29	24,100	8	49,700	15	546,300	6	13,433	1	1,552	17
H30	23,800	8	49,700	14	552,000	6	13,879	1	1,233	21
R1	24,500	7	49,200	14	466,400	6	15,167	1	1,135	21
R2	24,300	7	50,200	15	(482,300)	-	(15,863)	-	(1,765)	-
R3	23,800	7	49,900	16	513,400	6	17,756	1	1,327	19
R4	24,000	7	49,400	16	420,700	7	15,142	1	1,435	20
R5	24,400	7	52,200	15	458,400	7	12,652	2	1,265	19
R6	23,200	7	52,300	14	424,000	7	12,310	2	1,350	19
R7	22,900	7	51,000	13	-	-	-	-	-	-

※平成27年及び令和2年の肉豚、採卵鶏、ブロイラーの飼養頭羽数は畜産課の調査結果を()で参考値として記載する。

※令和7年は農林業センサス実施年だったため、肉豚、採卵鶏、ブロイラーの飼養頭羽数の調査はない。

(4) いばらきの野菜・果物・肉の買える店、食べられる店

茨城県産品を取り扱う販売店や料理店の店舗を指定し、イメージアップや販売促進を図っています。

買える店 : 年間を通して茨城県産農産物を販売している店

食べられる店 : 茨城県産の食材を使ったメニューを提供する料理店

区分	買える店 (うち県外)	食べられる店 (うち県外)
県産品販売指定店、提供店	284 (-)	229 (9)
常陸牛販売指定店・推奨店	286 (105)	376 (123)
常陸の輝き販売指定店・飲食指定店	37 (4)	70 (12)
ローズポーク販売指定店	142 (13)	74 (15)
奥久慈しゃも料理店・販売店	64 (28)	164 (64)

※海外店舗を含む

(R8.3現在)

参考資料：本県オリジナル品種や、ブランド化を目指す品種等

品 種 名	概 要	
水稲 ふくまる SL		<p>茨城県オリジナル品種「ふくまる SL」は、これまでの「ふくまる」にイネ縞葉枯病抵抗性を付与した品種で、R2年に県の奨励品種に採用及び品種登録出願公表しました。大粒で、炊き増えがよく、冷めても粘りがあり食味が低下しにくい品種です。また、高温の年にも白未熟粒の発生が少なく、品質が安定しています。現在は、中食・外食向けに加えて、家庭用の精米にも取り組むなど、販路の拡大を進めています。</p> <p>参考)栽培面積：R1年 754ha、R2年 796ha、R3年 975ha、R4年 1,003ha、R5年 1,236ha、R6年 1,333ha、R7年 1,662a</p>
常陸秋そば		<p>茨城県オリジナル品種「常陸秋そば」は、質の高い統一品種を作りたいとの思いから、金砂郷（現 常陸太田市）の在来種から選抜されました。県内外の蕎麦職人や蕎麦通から高い評価を得る「常陸秋そば」は、実が大きくて粒ぞろいが良く、豊かな香りと甘みが特長です。</p> <p>参考)栽培面積：R1年 3,460ha、R2年 3,510ha、R3年 3,430ha、R4年 3,450ha、R5年 3,590ha、R6年 3,560ha、R7年 3,540ha</p>
メロン イバラキング		<p>茨城県オリジナル品種「イバラキング」は、上品な香りと甘さ、なめらかな口あたりとジューシーな果肉が魅力の春メロンで、H22年に品種登録しました。低温でも肥大性が良く、本県産の通常の春メロンよりも1割以上果実が大きくなります。現在はトップブランド化を目指し、認知度の向上と贈答需要の拡大に取り組んでいます。</p> <p>参考)栽培面積^{※2}：R2年 38.5ha、R3年 44.0ha、R4年 47.0ha、R5年 49.5ha、R6年 51.0ha、R7年 53.3ha ※2：収穫年の栽培面積</p>
なし 恵水		<p>茨城県オリジナル品種「恵水」は、9月上旬～下旬に収穫できる中生品種で、H23年に品種登録しました。平均糖度は13%と高く、酸味は少な目で、果実は600g前後の大玉で食べ応えがあります。現在はトップブランド化を目指し、産地とともに、1万果に1果と言われる「幻の恵水」の取組等による認知度向上を図っています。</p> <p>参考)栽培面積(成木換算)：R1年 22.5ha、R2年 27.4ha、R3年 33.8ha、R4年 38.6ha、R5年 43.2ha、R6年 47.5ha、R7年 48.7ha</p>
ぶどう シャインマスカット		<p>農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所で育成されたぶどう「シャインマスカット」は、平成18年3月に品種登録された欧州系品種です。果皮色が輝くような黄緑色で、上品なマスカット香があり、肉質硬く、食味も良好で皮ごと食べられます。茨城県では、独自に高品質栽培技術を開発し、普及を図っています。</p> <p>参考)栽培面積：R1年 11.4ha、R2年 11.6ha、R3年 11.5ha、R4年 14.0ha、R5年 15.3ha、R6年 17.1ha、R7年 17.9ha</p>
いちご いばらキッス		<p>茨城県オリジナル品種「いばらキッス」は、H24年に品種登録しました。果実の形状、甘さと酸味のバランスが良く食味が優れます。生産技術の普及、生産の拡大、品種の認知度向上を進めています。</p> <p>参考)栽培面積：R2-3年 1,120a、R3-4年 1,193a、R4-5年 1,239a、R5-R6年 1,263a、R6-R7年 1,234a、R7-8年 1,375a</p>
花のオリジナル品種		<p>茨城県オリジナル品種として、小菊 16品種、グラジオラス 5品種、カーネーション 3品種、千両 2品種を育成、品種登録を行い、花きの生産振興を図っています。</p> <p>小菊「常陸サマーライト」(写真左)栽培面積：R7年 60a、グラジオラス「常陸はなよめ」(写真右)栽培面積：R7年 20a</p>

参考資料：本県のブランド畜産物 【畜産】

○常陸牛



常陸牛とは、茨城県内の指定生産者が約 30 ヶ月にわたり飼育した黒毛和牛のうち、(公社)日本食肉格付協会の枝肉取引規格の歩留等級 A 又は B 等級かつ肉質等級が 5 と 4 等級のもので、茨城県常陸牛振興協会が認定したものです。

常陸牛の状況

(各年度末現在)

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
出荷頭数 (頭)	8,579	8,815	9,532	10,136	11,004	10,885	11,101	11,908	11,917
生産者数 (戸)	161	152	150	146	145	145	139	140	141
指定店・推奨数 (店)	553※	567※	585※	584※	586※	608※	636※	657※	662※

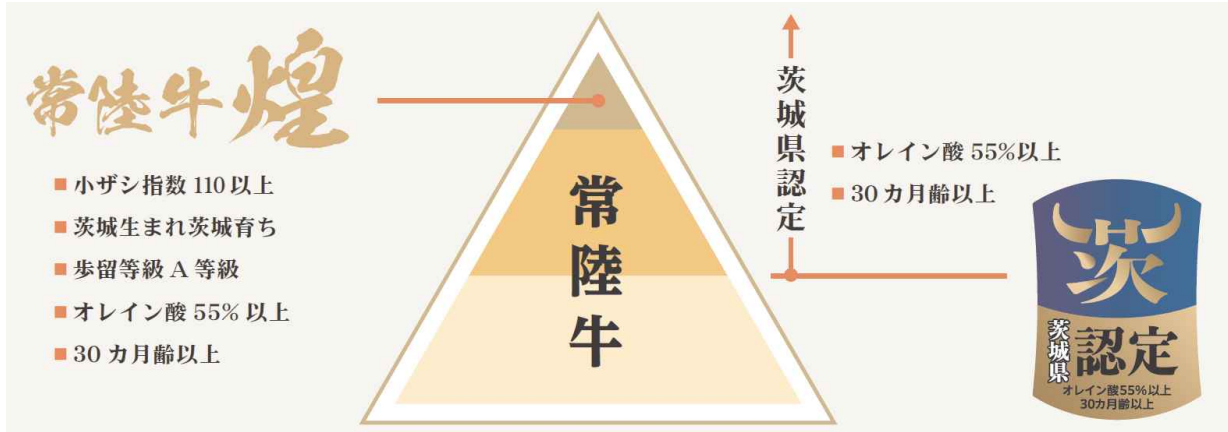
※海外店舗を含む

他の和牛銘柄との差別化を図ること、安定した品質の常陸牛を供給することなどにより常陸牛のブランド力を向上することを目的に令和 5 年度から脂肪の質等に着目した美味しさ重視の肉質基準で選別する「常陸牛煌」の認定を開始しました。さらに令和 7 年 4 月から、おいしさを重視した基準による「茨城県認定常陸牛」の認定を行っています。

〈常陸牛煌・県認定常陸牛の認定頭数〉

(各年度末現在)

	R5	R6	R7
常陸牛煌 (頭)	127	199	346
県認定 (頭)	—	—	1007



○常陸の輝き



常陸の輝きは、茨城県畜産センターが開発したデュロック種の系統豚「ローズ D-1」を交配した三元豚です。専用の飼料でじっくり育て上げており、やわらかく、旨味があり、香りが良い肉質が特徴です。

常陸の輝きの状況

(各年度末現在)

	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
出荷頭数(頭)	500	7,640	17,263	19,642	19,515	16,771	18,472	16,383
生産者数(戸)	3	7	7	6	6	7	7	7
販売店数(店)	-	40	57	64	72	70	84	107

○ローズポーク



ローズポークは、県花「バラ」にちなんで命名された銘柄豚です。県が開発した高能力な系統豚を交配して生産した豚に、県内の指定生産者が大麦を加えた専用飼料で育てた、きめ細やかで適度な脂肪を含んだ風味のある豚肉です。

ローズポークの状況

(各年度末現在)

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
年間生産頭数(頭)	30,285	31,469	33,195	36,278	39,249	36,525	34,629	39,737	38,995
生産者数(戸)	28	26	24	22	20	18	15	13	13
販売店数(店)	221	220	221	199	197	193	197	215	216

○奥久慈しゃも



奥久慈しゃも(生産者団体:奥久慈しゃも生産組合)は、血統要件や平飼いの飼育面積など厳しい条件をクリアした豊かな風味の地鶏です。平成30年12月に地鶏としては全国で初めて地理的表示(GI)保護制度に登録されました。

奥久慈しゃもの状況

(各年度末現在)

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
生産羽数(羽)	50,739	44,351	43,323	46,159	41,157	35,155	39,741	47,406	46,708
生産者数(戸)	9	9	9	9	9	7	7	8	7
販売店数(店)	206	223	232	205	201	207	205	224	228

参考資料：6次産業化、直売所

(1) 6次産業化に取り組む経営体数

「農産物の加工」を行っている経営体数は令和2年で1,298経営体であり、平成27年比で約1.3倍となっています。また、「海外への輸出」も、平成27年比で約2.4倍と大きく増加しています。

◇ 農業生産関連事業を行っている経営体数

事業内容	茨城県			全国		
	H22	H27	R2	H22	H27	R2
農産物の加工	1,502	981	1,298	34,172	25,068	29,950
貸農園・体験農園等	103	79	30	5,840	3,723	1,533
観光農園	343	257	213	8,768	6,597	5,275
農家民宿	13	4	5	2,006	1,750	1,215
農家レストラン	28	23	29	1,248	1,304	1,244
海外への輸出	8	12	29	445	576	412

(資料：農林業センサス)

(2) 6次産業化関連事業の販売金額

令和6年度の本県の6次産業化関連事業の年間販売金額（農産物の加工と農産物直売所の年間販売金額の合計額）は、約501億円と減少し、全国第16位となっています。

◇ 6次産業化関連事業※の年間販売金額

R3			R4			R5			R6※ ²		
順位	都道府県	金額 (百万円)	順位	都道府県	金額 (百万円)	順位	都道府県	金額 (百万円)	順位	都道府県	金額 (百万円)
1	北海道	145,426	1	北海道	159,521	1	北海道	154,601	1	北海道	144,551
2	静岡	102,433	2	静岡	96,699	2	静岡	105,459	2	静岡	106,560
3	熊本	77,284	3	長野	87,137	3	熊本	87,009	3	熊本	102,895
4	愛媛	76,756	4	熊本	84,644	4	愛媛	82,540	4	長野	88,266
5	福岡	76,147	5	愛媛	80,112	5	千葉	81,180	5	愛媛	84,129
15	茨城	55,480	15	茨城	58,137	15	茨城	55,290	16	茨城	50,131

※1 農産物の加工と農産物直売所の年間販売金額の合計 出典：農林水産省 6次産業化総合調査

※2 R6の値はR8年3月31日公表の第1報の値

(3) 県内の直売所数

直売所数は近年減少傾向で推移しているものの、直売取引による市場外流通は、6次産業化や地産地消の推進において重要な役割を担っています。

◇ 県内の有人直売所数 (資料：農産物直売所等実態調査、販売戦略課調べ)

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
県北	36	41	42	42	43	43	41	41	23	23	19	19	18
県央	49	50	52	51	48	48	49	44	25	21	21	20	19
鹿行	29	31	30	30	31	31	31	30	24	25	22	21	19
県南	102	107	110	108	106	97	90	95	79	71	73	76	70
県西	66	64	62	60	58	58	54	53	37	41	33	42	37
JA直売所									65	63	62	59	58
合計	282	293	296	291	286	277	265	263	253	244	230	237	221

参考資料：農林水産物の輸出

本県農林水産物の輸出実績（令和7年度）は、青果物等で1,579百万円、米で1,143百万円、畜産物（常陸牛、鶏卵）で2,091百万円、水産物で8,354百万円（令和7年※）となっており、増加傾向にあります。

※水産物は年（暦年）で集計

青果物等は、タイやシンガポールなど、アジア向けかんしょの輸出が堅調に増加したことにより、輸出額が前年度比161%と増加しました。

米については、欧米での販路が拡大し、輸出額が前年度比117%と増加しました。

畜産物は、米国向け牛肉の輸出が増加し、輸出額が前年度比172%と順調に拡大しました。

水産物については、EU向け冷凍いわしの輸出が増加し、輸出額が前年度比171%と増加しました。

◇ 輸出実績の推移

（百万円）

品目	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	前年度対比 （%）
青果物等	430	506	578	982	1,579	161
米	361	389	710	979	1,143	117
畜産物	184	422	465	1,216	2,091	172
水産物	6,888	5,690	4,440	4,894	8,354	171
全体	7,863	7,006	6,193	8,071	13,617	169

※ 県事業等を通じて関与した事業者などへの聞取調査結果（県調べ）

※ 水産物は年度ではなく年（暦年）で集計

（その他） 常陸牛海外販売推奨店数 R7：58店舗

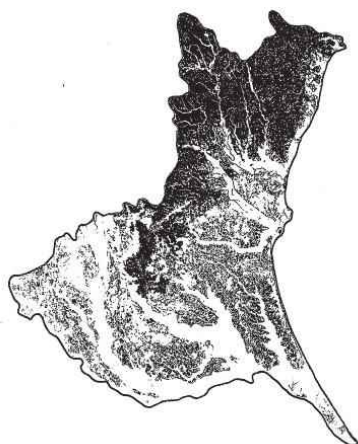
（タイ18店舗、ベトナム22店舗、シンガポール4店舗、アメリカ2店舗、フィリピン12店舗）

4 森林・林業の概況

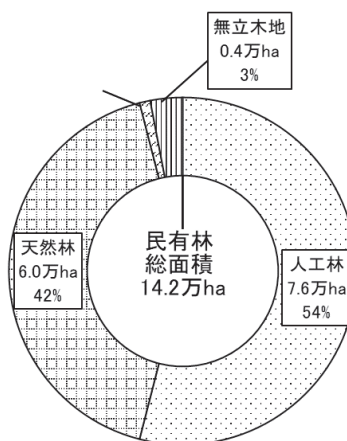
(1) 本県森林の特徴と地位

(a) 本県の森林面積は18.7万haで、県土総面積61万haの31%を占めています。森林面積のうち14.2万haが民有林であり、戦後、積極的にスギやヒノキの造林が進められた結果、人工林率は全国でも上位となっています。これらの森林は、県北部を中心とする山岳林地帯と、県中央部から南西部にかけての平地林地帯とに大別されています。

茨城県の森林分布（森林部分は黒色表示）



民有林面積の内訳（R7.4）



(b) 県北部を中心とする山岳林は、主としてスギやヒノキなどの人工林からなる代表的な林業地帯であり、森林資源は年々増加し、本格的な利用期を迎えています。

県中央部から南西部の平地林は、都市化の進展に伴い年々減少していますが、都市近郊の生活環境保全のための森林として期待が一層高まっています。このため都市化の進展との調和を図りながら、森林の整備を進めていく必要があります。

(c) 県内の民有林のうち人工林の森林蓄積[※]は、約2,386万m³、1ha当たりの蓄積は、314m³となっており、年々増加する傾向にあります。これは全国平均381m³（令和4年3月31日、林野庁調べ）の約8割となっています。

※森林蓄積：森林における立木の材積をいう。

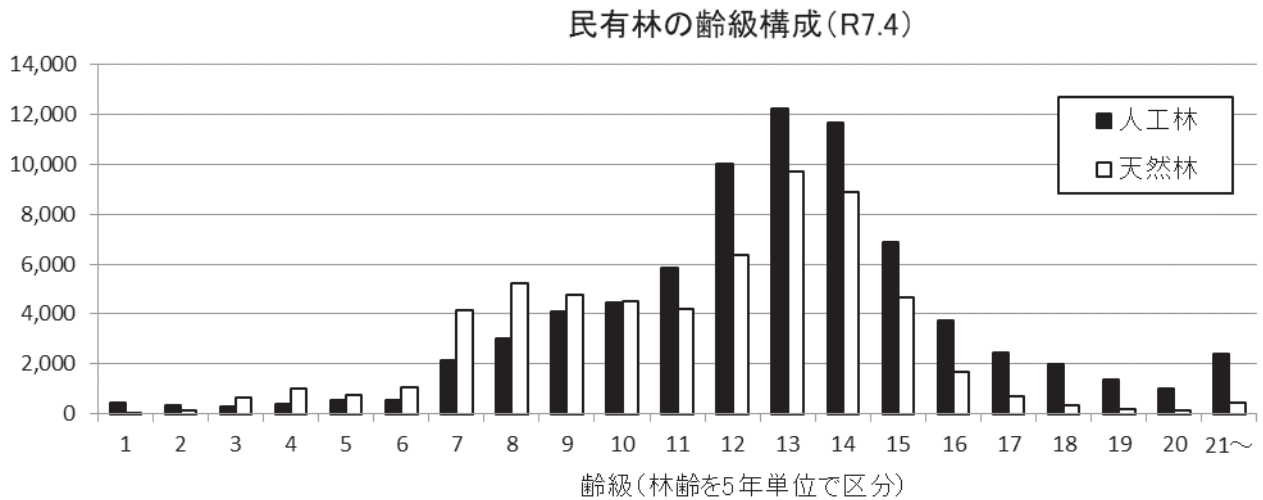
◇ 本県林業の地位

区分	単位	茨城県	全国	順位	シェア (%)
森林面積	ha	*1 187,014	*2 25,024,810	*2 39	*2 0.7
国有林面積	ha	*1 45,044	*2 7,656,573	*2 21	*2 0.6
民有林面積	ha	*1 141,970	*2 17,368,237	*2 39	*2 0.8
民有林人工林	ha	*1 75,976	*2 7,846,111	*2 38	*2 1.0
林野率	%	*1 31	*2 67	*2 45	—
民有林人工林率	%	*1 54	*2 45	*2 17	—
林業経営体数	戸	*3 281	*3 23,300	*3 31	*3 1.2

*1：林政課資料（令和7年4月1日現在）*2：森林資源の現況（令和4年3月31日、林野庁）

*3：2025年農林業センサス

◇ 民有林の齢級構成



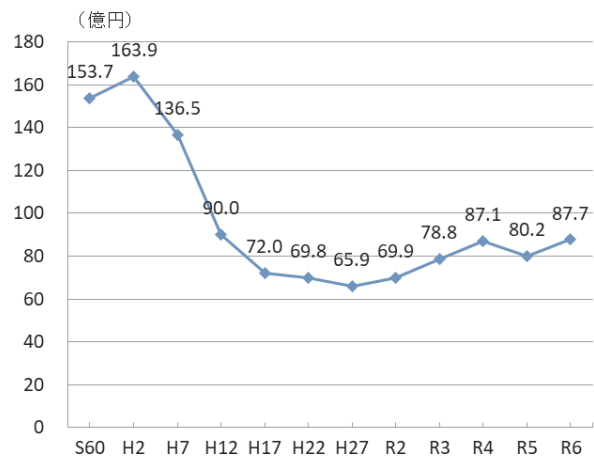
(2) 本県の林産物の生産動向

令和6年の林業産出額は87.7億円、うち木材の産出額が55.9億円、きのこ類など特用林産物の産出額が31.8億円となっています。

本県の森林面積は全国39位と下位であるものの、人工林の割合が高く、また、傾斜が緩やかであるなど木材の生産に適した森林が多いことから、木材産出額は全国17位と比較的上位に位置しています。

◇ 本県の林業産出額の推移

(資料：農林水産省 林業産出額)



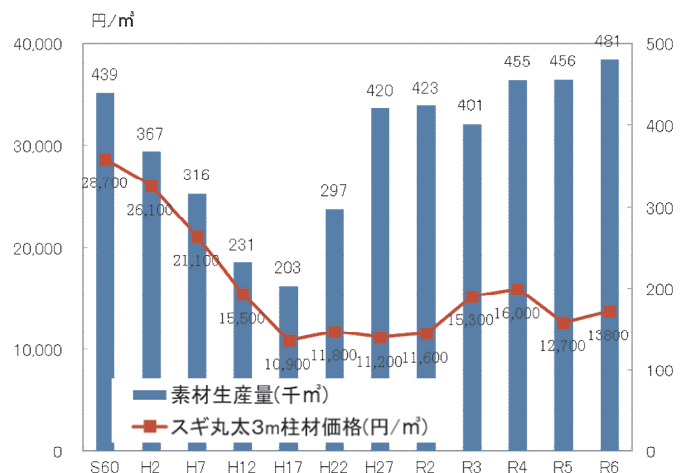
(a) 木材

素材(丸太)の生産量は、昭和40年の65万m³をピークに、木材価格の低迷や林業労働力の減少などにより、平成15年には18.7万m³まで減少しました。

その後、宮の郷工業団地(常陸大宮市)において木材加工流通施設の整備が進んだことや、戦後積極的に植えられたスギやヒノキが植栽から50年以上を経過し伐採期を迎えていることなどから素材生産量は増加し、令和6年は48.1万m³(昭和40年比73.8%)となっています。

◇ 素材生産量と素材価格の推移

(資料：木材統計、木材市況)



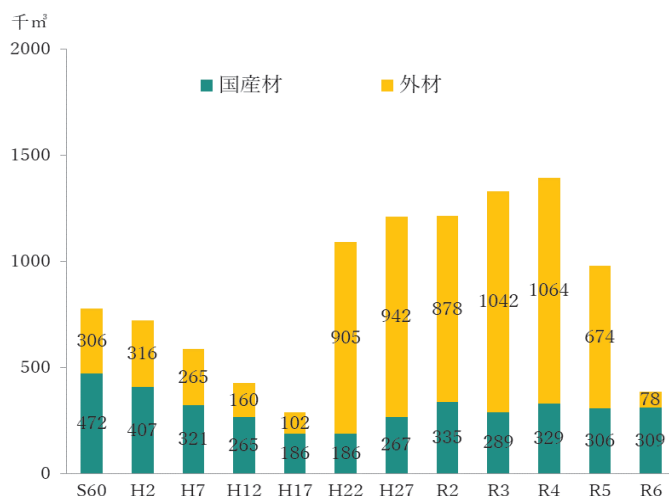
また、県内の製材工場などにおける素材（丸太）の需要量は、昭和50年代には約90万 m^3 の需要がありましたが、住宅着工戸数の減少や代替素材へのシフトにより以降は減少し、平成17年は28.8万 m^3 まで落ち込みました。

平成19年に、約100万 m^3 の外国産材丸太を取り扱う大規模製材工場が県内に完成し、素材需要量は急増しましたが、令和5年に当該工場において火災が発生し稼働を長期停止したことにより令和6年の需要量は急減しました。

一方、国産材の需要については、宮の郷工業団地における木材加工流通施設の整備や素材生産量の増加に伴い回復し、近年は30万 m^3 程度で推移しています。

◇ 素材需要量の推移

(資料：木材統計)



(b) 特用林産物

特用林産物とは、しいたけ等のきのこ類やたけのこやわらび等の山菜類など、森林を起源とする生産物のうち木材を除くものの総称です。

県内では、ひらたけ(全国4位)、ぶなしめじ(同5位)、生きくらげ(同1位)など菌床栽培のきのこ類や、原木生しいたけ(同2位)が多く生産されています。

また、本県のウルシから採取される生漆は品質的に優れ、文化財の修復等に用いられています。年間210kg(同2位)の生産量があり、岩手県とともに貴重な国産漆の産出県となっています。

◇ 特用林産物の生産状況

(資料：「林業産出額」農林水産省)

年次	単位	H2	H7	H12	H17	H22	H27	R2	R5	R6
特用林産物産出額	千万円	610	559	456	444	276	250	307	280	318
きのこ類産出額	千万円	606	552	450	434	274	248	304	278	315
生しいたけ生産量	トン	4,744	4,108	4,101	3,100	1,385	771	766	692	827
生漆生産量	kg	1,100	920	530	298	237	178	371	180	210

○ 自立した林業経営による適切な森林の整備・管理

◆森林整備の推進

- ・経営規模の拡大に意欲的な林業経営体が行う
再造林等の森林整備に対し補助

	R4-R8	うちR8 年度計画
再造林面積	855ha	205ha

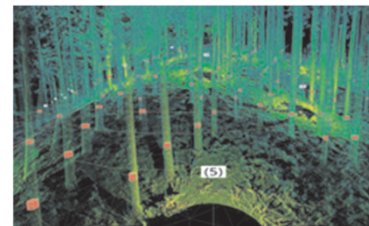


伐採後の再造林

◆自立した経営体の育成

- ・経営規模の拡大に意欲的な林業経営体が行う高性能林業機械やスマート林業機器の導入に対し補助

スマート林業に取り 組む経営体数	10経営体	10経営体
---------------------	-------	-------



地上レーザー測量機器による
林内調査

◆県産木材の利用促進

- ・木材利用のモデルとなる大規模な建築物の木造化・木質化や保育園等への木製品の導入などに対し補助

施設の木造化・木質化	35施設	7施設
------------	------	-----



都内に建設された木造ビル

○ 森林環境の保全

◆海岸防災林の保全

- ・松くい虫予防のための薬剤散布や被害木の伐倒処理、広葉樹等の植栽等を実施

植栽面積	40ha	8ha
------	------	-----



広葉樹等の植栽

◆森林環境教育

- 森林の役割や公益的機能重要性、木材利用の意義等について理解を得るための森林・林業体験学習を実施

参加人数	23,300人	6,000人
------	---------	--------



森林・林業体験学習

5 水産業の概況

(1) 本県水産業の特徴と地位

(a) 海面の地理的特徴

本県は北部太平洋に面し、那珂川を境に北部は岩礁域、南部は砂浜域に分かれており、単調な海岸線を形成していることが特徴です。沖合では親潮と黒潮が交錯することから、寒暖両方の魚介類が漁獲される好漁場が形成されます。

(b) 海面漁業・養殖業

本県の海面では、前述の漁場特性と高い生産力を活かした多様な漁業が営まれています。遠洋・沖合漁業では、本県の基幹漁業である大中型まき網のほかに沖合底びき網等が、また、沿岸漁業では、船びき網を中心に小型底びき網、さし網等が行われています。令和6年の漁獲量は231,853tで、全国第3位です。

海面養殖業は、これまでほとんど行われてきませんでした。近年、漁港内での網いけす養殖が行われるようになってきました。



図 揚網中の大中型まき網船

(c) 霞ヶ浦北浦及び内水面の漁業・養殖業

本県の内水面には、全国第2位の面積を持つ霞ヶ浦北浦があり、漁船漁業やこい等の養殖業が行われています。また、那珂川、久慈川、涸沼等、大小227の河川や湖沼における漁業のほか、チョウザメ等の陸上養殖や、県北地域を中心ににじます、やまめ等の冷水性魚類の養殖が行われています。令和6年の内水面（霞ヶ浦北浦含む）漁獲量は1,701tで、全国第4位です。令和6年の内水面（霞ヶ浦北浦含む）養殖業の収獲量は709tで、全国第10位です。

(d) 水産加工業

沿海地区や霞ヶ浦北浦地区では、それぞれの地域の特色を活かした水産加工品の生産が盛んです。地元の水揚げされた原料を用いた冷凍品、しらす干し、佃煮等のほか、輸入原料を用いた蒸しだこ、干物等を生産しています。令和6年の水産加工品生産量は114,228tです。

◇ 本県漁獲量（収獲量）及び水産加工品生産量、全国順位、産出額

項目	漁業種類	R5	R6	R6 全国	R6 順位	R6 シェア
漁獲量 (t)	海面漁業	259,496	231,853	2,786,195	3位	8.3%
	内水面漁業	2,317	1,701	17,915	4位	9.5%
	霞ヶ浦北浦	552	409	-	-	-
収獲量 (t)	内水面養殖業	758	709	29,131	10位	2.4%
	こい養殖	667	629	1,617	1位	38.9%
水産加工品生産量 (t)	—	129,667	114,228	2,171,326	4位	5.3%
産出額 (百万円)	海面漁業	30,044	25,042	889,390	8位	2.8%

(資料：漁業・養殖業生産統計)

(2) 本県水産業の生産動向

◇ 漁獲量の全国順位が上位の本県主要魚種 (*内水面魚種) 単位：t

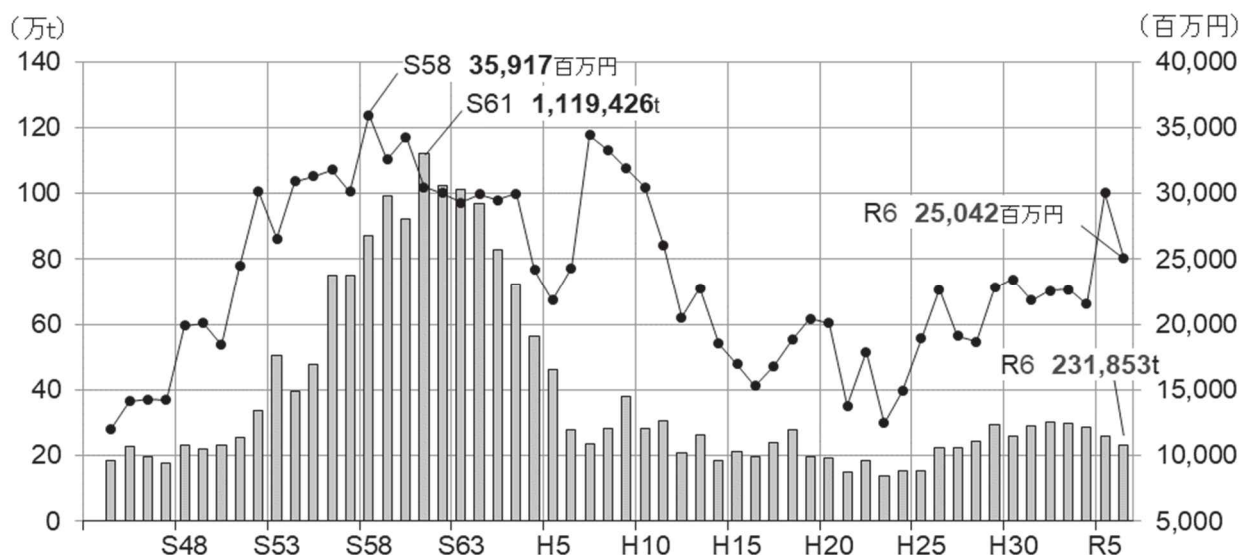
全国順位	令和4年		令和5年		令和6年	
1位	まいわし	238,418	まいわし	228,474	まいわし	208,258
	*うなぎ	12	*あゆ	318	*あゆ	267
	*こい養殖	763	*うなぎ	13	*しらうお	194
			*えび類	80	*うなぎ	14
			*こい養殖	667	*こい養殖	629

(資料：漁業・養殖業生産統計)

(a) 海面漁業

本県の海面漁業漁獲量は、主に大中型まき網漁業で漁獲されるいわし類やさば類といった多獲性魚類の豊凶により大きく変動します。漁獲量は、昭和40年代は20万t前後で推移したところ、昭和50年代に入り、さば類の豊漁や、まいわし資源の急増によって増加し、昭和61年に112万t近くに達しました。その後、まいわし資源の大きな減少等により、平成10年代以降は20万t前後で推移しており、令和6年の漁獲量は231,853tで、全国第3位です。

◇ 本県海面漁獲量及び漁業産出額の推移



(資料：漁業・養殖業生産統計)

① 遠洋・沖合漁業

大中型まき網は、本県海面漁業漁獲量の約9割を占める本県漁業の中核であるとともに、いわし類、さば類等を利用する水産加工業等の関連産業を支える、沿海地域の重要産業です。多獲性魚類が漁獲の大部分を占めており、令和6年の漁獲量は、まいわしが208,258tで全国第1位、さば類が11,384tで全国第6位です。

② 沿岸漁業

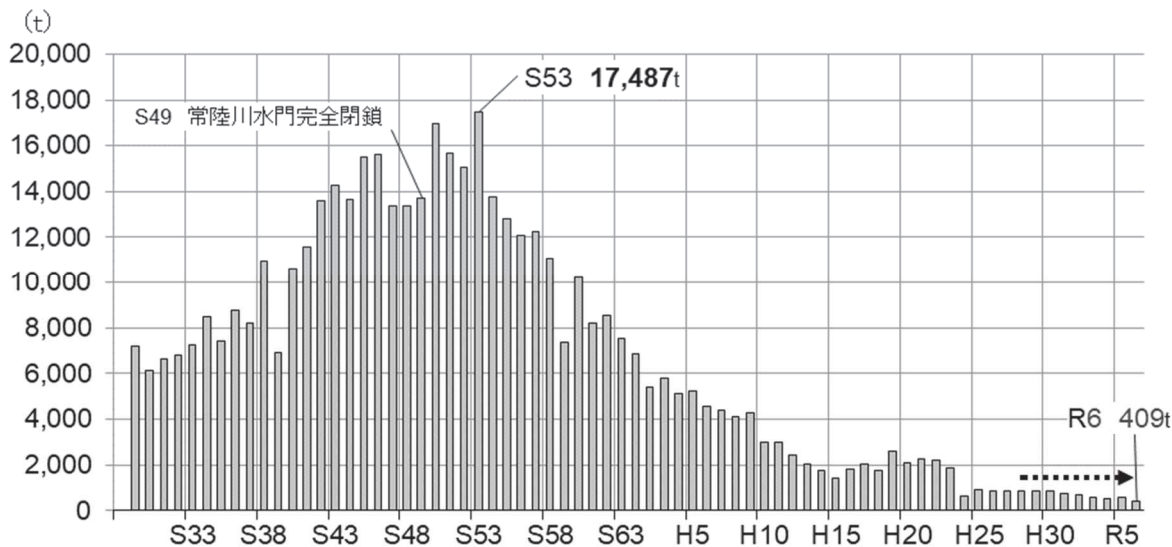
回遊性魚類が漁獲対象の船びき網は、本県沿岸漁業の基幹漁業であり、漁獲対象であるしらす等の好不漁により漁獲量が大きく変動します。本県は、沿岸漁業経営の安定化と消費者ニーズに応えるため、水産物のブランド化による魚価の上昇、ひらめ、あわび等の栽培漁業等の施策を進めています。

(b) 霞ヶ浦北浦及び内水面の漁業・養殖業

① 霞ヶ浦北浦の漁業

霞ヶ浦北浦は古くから漁業が盛んで、わかさぎ、しらうお、えび等が漁獲されています。漁獲量は、昭和53年の1.7万tをピークに減少傾向が続いたところ、近年は900t未滿で横ばいに推移しており、令和6年の漁獲量は409tです。

◇ 霞ヶ浦北浦の漁獲量の推移

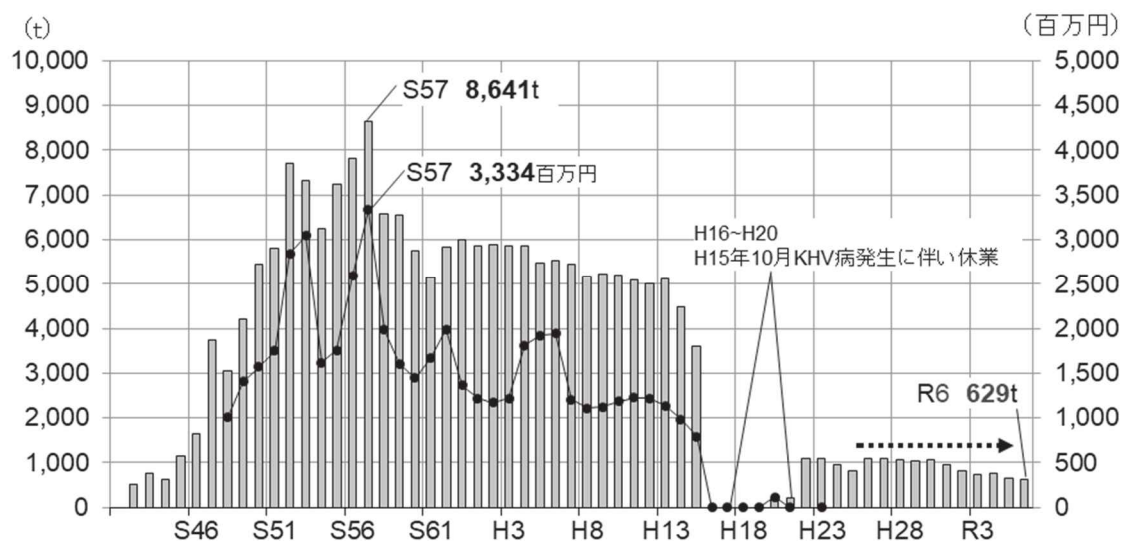


(資料：漁業・養殖業生産統計)

③ 霞ヶ浦北浦の養殖業

昭和40年代当初、霞ヶ浦北浦に導入されたこいの小割式養殖業は、陸上池や他の湖沼よりもコスト面で有利であったことから急速に普及し、年間収穫量約5,000t超の全国一の産地となりました。平成15年10月のコイヘルペスウイルス病発生により、こい養殖業は一時休業を余儀なくされましたが、病気に耐性を持つこいの生産技術の開発等により、平成21年4月に生産を再開しました。近年は1,000t前後で横ばいに推移しており、令和6年のこい養殖収穫量は629tで、全国第1位です。

◇ 霞ヶ浦北浦のこい養殖収穫量及び生産金額の推移



(資料：漁業・養殖業生産統計)

H27以降のこい養殖収穫量は霞北単独の集計がないため、茨城県全体の数量を記載

◇ 霞ヶ浦北浦の漁獲量及びこい養殖収獲量 単位：t

	R2	R3	R4	R5	R6	R6 全国	R6 シェア
漁業合計	670	593	498	552	409	17,915	2.3%
わかさぎ	73	34	16	4	0	603	0%
しらうお	188	152	150	37	194	225	86.2%
えび類	87	36	19	79	5	60	8.3%
こい養殖	812	749	763	667	629	1,617	38.9%

(資料：漁業・養殖業生産統計)

H27以降のこい養殖収獲量は霞北単独の集計がないため、茨城県全体の数量を記載

④ 内水面の漁業・養殖業

漁業の主要漁獲対象は、那珂川、久慈川のあゆや、那珂川（涸沼川）、涸沼のしじみです。養殖業は、チョウザメ等の陸上養殖や、県北地域を中心ににじます、やまめ等の冷水性魚類の養殖が行われています。令和6年の内水面（霞ヶ浦北浦含む）の漁獲量は1,701tで、全国第4位です。令和6年の内水面（霞ヶ浦北浦含む）養殖業の収獲量は709tで、全国第10位です。

(c) 水産加工業

北茨城市、ひたちなか市、大洗町、神栖市を中心に塩干、煮干、蒸しだこ、冷凍品等多様な加工品が生産されています。那珂湊（ひたちなか市）・大洗地区では、昭和40年代から輸入原料を用いた加工が行われるようになり、蒸しだこ、干しししゃも、ほっけ開き干し等の全国有数の生産地となっています。また近年は、神栖市を中心に冷凍いわし等の輸出が増えました。霞ヶ浦北浦周辺は、わかさぎ、しらうお、はぜ、えび等の佃煮、煮干、焼き物等の加工が盛んで、全国有数の佃煮産地です。令和6年の水産加工品生産量は114,228tです。

◇ 本県の水産加工品生産量 単位：t

	R2	R3	R4	R5	R6	R6 全国	R6 シェア
合計※1,2	149,886	148,024	138,194	129,667	114,228	2,171,326	5.3%
しらす干し	2,823	2,258	1,812	2,477	1,557	21,235	7.3%

(資料：水産加工統計)

※1 水産加工品生産量合計には、缶詰、魚油、飼肥を含まない

※2 合計数値は、R2から統計方法が品目毎の「主要県調査」となったことで公表されなくなったため、品目毎の数値を足し上げることで算出することとした。(R1以前の統計よりも過少)

(3) 経営体及び漁業就業者の動き

本県の海面漁業就業者数は、不安定な収入や、漁業未経験者が就業しにくい環境にあることから、全国的に減少しており、高齢化も進んでいます。令和5年の本県海面漁業就業者数に占める60歳以上の男性は36.6%で、担い手の確保が課題となっています。

◇ 本県海面漁業経営体数、漁業就業者数、動力漁船数（令和5年）

	茨城県	全国
海面経営体（経営体）※1	310	65,662
海面漁業就業者（人）※1	1,083	121,389
海水漁業動力漁船（隻）※2	838	191,208

(資料：※1 2023年漁業センサス、※2 漁船統計表)

◇ 本県海面漁業年齢別・男女別就業者数（令和5年） 単位：人

	人数	合計に 占める割合
合計	1,083	
男	1,053	97.2%
15~24 歳	59	5.4%
25~39 歳	234	21.6%
40~59 歳	364	33.6%
60 歳以上	396	36.6%
女	30	2.8%

(資料：2023 年漁業センサス)

(4) 栽培漁業

本県沿岸資源の維持増大を図るため、茨城県栽培漁業センターにおいてひらめやあわび等の稚魚・稚貝を生産し、漁業者等により放流が行われています。近年の放流実績は、ひらめ約 50~100 万尾（全長 10cm サイズ）、あわび約 24~30 万個（殻長 30~40mm サイズ）で、漁獲量の安定などの効果が見られています。

(5) 漁港等の漁業生産基地

本県には海面と内水面を合わせて 24 の漁港があり、第 3 種漁港の平潟・大津・久慈・那珂湊・波崎漁港を中心に、漁業生産、流通・加工の基地としてその機能を発揮しています。漁港については、長期計画に基づく整備を進めるとともに、施設の長寿命化対策を推進しています。また、この他に大洗町や鹿嶋市等に所在する 4 港湾も漁業生産活動の基地となっています。

参考資料：本県の代表的な魚介類

★プライドフィッシュ指定…地元漁師が自信を持って勧める魚（茨城沿海地区漁連）

<p>茨城常磐のまさば★</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 10～3月下旬が茨城県沖の主な漁期 令和6年の漁獲量は11,384tで、全国第6位（さば類） 11～12月に北海道や三陸でたっぷり脂を蓄えたさばが茨城県沖まで南下したところを漁獲する 分厚い身と質の良さ、豊かな旨味で市場からの支持が絶大
<p>常陸乃国まさば</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 新たなブランド養殖魚として、令和6年11月に誕生 「生食推奨」をコンセプトに、独自のブランド基準「①本県で養殖されたマサバであること、②人工種苗由来であること、③人工餌料で育成されたこと」で生産 適度に脂が乗り、爽やかな旨味で、青魚が苦手な方からも高評価
<p>茨城のしらす★</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 4～7月（春しらす）と8～11月（秋しらす）が旬 令和6年の漁獲量は2,714tで、全国第5位 県内各所において、船びき網で漁獲される 主にしらす干しに加工されるほか、近年は生しらす丼や生食用凍結しらす「海の輝き」を売り出している
<p>常陸乃国しらす</p> 	<ul style="list-style-type: none"> シラスを活きたまま漁獲することができる「一艘曳き（いっそうびき）」の特長を活かし、加工されるまでのシラスの鮮度を突き詰めることをコンセプトとして令和6年10月に誕生した最高品質のブランドシラス 鮮度の良さを表す「『し』字率」を95%以上と厳格な基準を設けている
<p>鹿島灘はまぐり★</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 春が旬 「県の春のさかな」に指定 主に大洗地区～波崎地区において貝桁網で漁獲される 酒蒸、潮汁、焼きはまぐりなど濃厚な旨みが楽しめる
<p>常陸乃国いせ海老</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 7～9月が旬 茨城県沿岸全域において、刺し網で漁獲される 漁獲されるサイズが大きいという茨城県産イセエビの特長に着目し、スタンダード基準で1尾600g以上、プレミアム基準で1尾1.0kg以上を基準とするほか、触覚や眼が揃い見栄えがするものを厳選している
<p>茨城のひらめ★</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 秋～冬が旬 「県のさかな」「県の秋のさかな」に指定 県内各所において、刺し網や底びき網等で漁獲される 「常磐もの」ブランドの代表格
<p>茨城あんこう★</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 冬が旬 「県の冬のさかな」に指定 7～8月を除く通年水揚げがあり、主に底びき網で漁獲される 平潟や水戸の名物「あんこう鍋」は全国的にも有名で「茨城あんこう」としてブランド化されている

<p>わかさぎ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7～12月が主な漁期 「県の淡水のさかな」に指定 ・ 霞ヶ浦北浦において、トロール漁で漁獲される ・ 佃煮、甘露煮、煮干しなどの加工品のほか、近年は鮮魚販売も積極的に行われている
<p>霞ヶ浦 暁のしらうお</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 秋～冬が旬 ・ 霞ヶ浦北浦において、トロール漁で漁獲される ・ 霞ヶ浦漁業協同組合と県の共同研究で開発された品質保持技術により、令和6年11月に誕生したブランドシラウオ ・ 凍結品として販売され、漁獲直後の透明感・食感をいつでも、どこでも味わうことができる
<p>霞ヶ浦キャビア</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都内有名フレンチ料理シェフの監修のもと、新たなブランドとして令和5年3月に誕生 ・ 霞ヶ浦流域で育成したチョウザメの卵のみを使用 ・ 一般的なキャビアより1%以上低い塩分で仕上げた「やさしい味わい」が特徴
<p>ひぬまやまとしじみ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国有数のしじみ漁場である潤沼や潤沼川において、しじみかきで通年漁獲される ・ 機械を使わず手掻きで漁獲されるので、キズが少なく日もちする ・ 産卵前で身がふくらんだ6～7月（土用しじみ）と、寒さで身がしまる12～1月（寒しじみ）が旬

参考資料：いばらきの地魚取扱店



- ・ 茨城県内の港で水揚げされた魚介類「いばらきの地魚」を積極的にPRするため、「いばらきの地魚」を買うことができる店、食べることができる店として、小売店・飲食店・旅館などのうち次のいずれかの基準を満たす店舗を認証する制度
 - ✓ 年間の魚介類取扱数量のうち、いばらきの地魚が3割以上を占める
 - ✓ 販売の場合（小売店など）いばらきの地魚を販売する常設の専用スペースを設けている
 - ✓ 料理や飲食の場合（飲食店・宿泊業）いばらきの地魚を主食材としたメニューを常時3種類以上提供している
- ・ 令和8年5月現在 143店認証
(小売店104、飲食店38、宿泊業10、同一店の複数登録あり)

参考資料：茨城県の漁港及び港湾

